



Doctors File

ドクターズ・ファイル

vol.1909

石川博之院長

医療法人社団EIYU Green Dental Clinic 緑園(横浜市泉区/緑園都市)

1

2

3

緑園都市駅から徒歩2分。コンクリート打ちっ放しのおしゃれなビルの2階にある

「Green Dental Clinic 緑園」は、訪問歯科診療も行っている地域密着型の歯科医院でありながら、大学病院と比べても遜色のない高度な治療を受けることができる。柔らかい物腰が印象的な院長の石川博之先生は、長年大学病院で腕を磨いてきた口腔外科医。一方で、画像診断の専門家の顔も併せ持ち、その確かな診断能力と高い技術で、難しい親知らずの抜歯や、土台となる骨が欠損しているために他院では困難とされたインプラント治療にも対応する。「患者さん一人ひとりに密着したオーダーメイドの診療がモットー」と話す石川先生に、診療のこと、歯科医師を志した理由、将来の夢などたっぷり話を聞いた。（取材日2015年11月20日）

豊富な知識と経験で、親知らず抜歯の難症例にも対応

—先生が歯科医師をめざしたきっかけは何ですか？



父が調剤薬局を営んでおり、医療が身近な環境で育った影響が大きいと思います。実家の調剤薬局で処方箋を持ってきた患者さんに接している父の姿をいつも見ていましたから。数ある医療職のなかでも歯科医師をめざしたのは、自分自身が虫歯でつらい経験をしたことがあり、同じように虫歯で痛く、つらい思いをする人を少しでも減らすことができたならと思ったことがきっかけになっています。

—医院名の「グリーン」は緑園都市にちなんだものですか？

そうなんです。緑園都市の「緑」から取ったもので、それに合わせてインテリアもグリーンを基調にしました。患者さんにリラックスしていただきたいので、BGMにはハワイアンを流しています。BGMにマッチするように、待合室にはハワイアンキルトが飾ってありますが、実はあれ、患者さんが手作りでプレゼントしてくれたものなんです。ちなみに、開業場所として緑園都市を選んだ一番の理由は、ここが私の育った愛着のある地元だからです。この街には高校時代から住んでいるんですよ。

—クリニックの特徴を教えてください。

一般歯科から矯正歯科、インプラント治療、審美歯科まで幅広く対応していますが、一番の特長は私の専門である口腔外科に強い点。例えば、難しい親知らずの抜歯ですと、通常大学病院などに紹介されます。しかし大学病院は待ち時間が長くなりがちですし、場合によっては何日も待たされることも。しかし当院の場合、予約がスムーズにいけば、初診で来ていただいたその日に抜いてしまうことも可能です。親知らずの抜歯は、切開の方法や抜けないときにはどんな原因が考えられるのかなど、術式の引き出しをどれだけ持っているかが重要です。私は多くの症例を経験しており、その点でも患者さんにとって当院での治療は大きなメリットになるのではないのでしょうか。もちろん親知らずの抜歯だけではなく、舌炎・口腔乾燥症といった粘膜疾患にも対応しています。



訪問歯科診療で可能なすべての治療を網羅

—外来だけでなく訪問歯科診療にも力を入れていますね。

外来診療と訪問診療を2本柱としています。病気や障害で通院が難しい方のご自宅に伺うのですが、院内で使っている診療機器をコンパクト化したポータブルユニットやポータブルレントゲン、ポータブル歯面清掃用ブラシなど、他院では見かけることの少ない診療機器も取りそろえていますので、院内で受けていただくのとほぼ同レベルの治療を提供することができます。また、嚥下内視鏡も導入しており、食べ物を飲み込む嚥下機能の改善を目的とした嚥下リハビリテーションも実施しています。当院には、私をはじめ内視鏡による診断技術を習得した口腔外科医がおりますので、安心してリハビリを受けていただけます。



—訪問歯科診療について、先生のお考えをお聞かせください。

団塊世代が75歳を迎える「2025年問題」を控え、医師や歯科医師が患者さんのもとへ出向いて診療するスタイルが増え、今後はそれが主体となってくるでしょう。当院では、専用の車2台体制で訪問歯科診療に取り組み、訪問で可能なすべての治療を網羅。今後もさらに力を入れていく必要があると考えています。また、訪問歯科診療を利用される患者さんは、医科的な疾患を抱えていらっしゃるケースが多く、対応する歯科医師や歯科衛生士、歯科助手には幅広い知識が要求されます。患者さんのさまざまな状態に応じるため、多種の治療の引き出しが必要不可欠なのです。その点、口腔外科医は内科・耳鼻科・形成外科などの知識も必要とされる口の周り全体の専門家ですので、訪問歯科診療においても、口腔外科医が手がけることのメリットは大きいと思います。

—外来診療においても、かなり難しい症例に対応していただけると伺いました。

例えばインプラント治療では、歯槽骨と呼ばれる歯を支える骨にインプラントを打ちこみますが、加齢などで骨が薄くなっている方は治療が難しいこともあります。その場合当院では、骨の欠損を補う骨造成の手術をした上でインプラント治療を実施。そこまで大掛かりでなくとも、短めのインプラントを使ったり、少し斜めに打ち込むことで埋入深度を調整したりといった工夫もしています。こうした治療は、外科的技術が求められることはもちろん、画像診断とそれに基づく診断が的確にできることが大前提です。幸い私は、放射線医学総合研究所で画像読影解析の経験を積んでいるので、的確な診断ができていると自負しています。他院でインプラント治療が難しいと言われた方も気軽にご相談ください。

—診療で普段から心がけていることは？



オーダーメイドな診療を心がけています。個人個人に合わせた、その人なりの治療法というのがあって思うんです。例えば、保険診療の材料で十分という方もいれば、自費でも構わないから良い材料を使ってほしいという方もいる。そこは患者さんのお話をよく伺って、ご要望に沿った満足度の高い治療を実現できるよう努めています。また、当たり前のことですが、治療法についての説明は、患者

さんご自身に納得していただけるまで、わかりやすい言葉で丁寧に行うように気を付けています。

口腔外科の専門家として口腔がんの早期発見にも尽力

—歯科医師になってよかったと思う瞬間は？

初期の口腔がんを見つけられた時は、生死に直結する病気だけにうれしかったです。口腔がんの初期症状は口内炎と似ていて、その患者さんも当初は口内炎だと思って内科にかかっても一向に良くなり、かかりつけの歯科医院でも、口内炎だから心配いらないと言われたそうです。でもどうしても納得がいかないと当院を受診。実際に診ると、これはどうみても口内炎ではないと思ったので、すぐに専門病院に紹介しました。その病院で詳しく検査したところ、やはり初期の口腔がんであることが判明。後で患者さんに「先生のおかげで助かったよ」と感謝されました。専門に培ってきた口腔外科の力を役立てることができてうれしかったですね。



—今後の展望を教えてください。

まずはしっかりと地域に密着し、安全で安心できる歯科医療を提供し続けて行くこと。訪問歯科診療に関しては、人員や訪問車の数を増やしたり、日曜日も対応したりと、今以上に力を入れていきたいと思っています。また、これまで培ってきた診療システムや高精度な治療、訪問歯科診療を、より多くの患者さんに還元すべく、新たな拠点の構築にも力を注いでいきたい。それには人材育成がとても重要だと考えています。そのため当院では院内研修や勉強会を開き、歯科衛生士や歯科助手たちも訪問歯科診療についての知識の習得に努めています。外来診療では、歯科衛生士たちが患者さん一人ひとりに合わせた歯磨き指導を実施したり、歯間ブラシの使い方を説明したり、きめ細かいアドバイスを欠かしません。来院してくださる患者さんの「デンタルIQ」が高いのは、そんなスタッフの働きかけが功を奏しているのかもしれません。

—最後に読者へのメッセージをお願いします。



お口の中の環境は生活のリズムに直結していて、一つでも問題があると、しゃべることや食べることに支障が出てきます。例えば、親知らずの腫れは、年末の忙しい時、暴飲暴食などの不摂生が続いた時に起こることが多いのですが、早めにケアすれば大ごとにならずに済みます。予防の観点からも、かかりつけの歯科医院を見つけ、定期的に検診を受けて口腔環境を整えておけば、生活のリズム

が一定になり、安定した生活を送れるようになると思います。痛みがないとついつい歯科医院から足が遠のいてしまいがちですが、体の健康を考えるのと同様、お口のこと大切にしてほしいと思います。